

2018年春学期の全時間訓練のための
メッセージアウトライン

主題：
キリストのからだとしての召会を建造するために、
キリストの豊富を享受する

メッセージ 10

諸召会に語るその霊として、ダビデのかぎを持つ者として、勝利者たちと共に食事する方としてキリストを享受する

聖書：啓 3:7-22

I. 啓示録第2章と第3章において、キリストはすべての召会に語るその霊です——マタイ 5:8：

- A. 啓示録第2章と第3章の各書簡の出だしにおいて (2:1, 8, 12, 18. 3:1, 7, 14)、無限の、命を解き放つ、七倍に強化された、霊なるキリストの語りかけは、各召会の結びにおいて (2:7, 11, 17, 29. 3:6, 13, 22)、七つの召会に対する、七倍に強化された、すべてを含む、命を与える霊の宇宙的な語りかけとなります。
- B. こういうわけで、語るキリストは、語る霊、すべての召会に語るその霊となります。キリストは特定の地方召会に語り、その霊は宇宙的なからだに語ります。
- C. これは、その霊が主であり、主がその霊であることを示しているだけでなく、それはまた召会の墮落の暗やみの中で、その霊がきわめて重要であることを強調しています。それは、第1章4節の七倍に強化された霊によって示されているとおりです。
- D. 啓示録第2章と第3章の七つの手紙は主イエスによって語られた言葉ですが、今日、わたしたちがそれらを読むとき、神の七つの霊は神のエコノミーのために、これらの言葉をわたしたちに語ります。初め、主の言葉は特定の地方召会に対するものですが、後に、もろもろの時代の人々がそれを読むとき、その霊がすべての召会に語っていることとなります。
- E. その霊の語りかけはいつもわたしたちをキリストの注入へとわたしたちを向かわせます。その霊の語りかけはキリストの注入です——参照、Ⅱコリント 3:16-18：
 - 1. わたしたちが召会に対する神の七つの霊の語りかけに聞くときはいつも、わたしたちは直ちに、尊くて、甘くて、親密な伝達、すなわち、わたしたちを変化させ、造り変え、適切な材料にし、神の建造の中へと建造する注入の下にあります。
 - 2. 火の池に行かなければならないものは何でも、七つのともし火によって燃やし尽くされます (啓 4:5)。そして、今や、わたしたちは七つの目の統治の下にあって (5:6)、新エルサレム的一部分となるために、キリストであるすべてを注入されます。
- F. 諸召会の信者たちはその霊の語りかけを聞く地位にあり、こうして容易に聞く耳を

持つことができます。しかし、彼らのすべてが彼の語りかけに緊密に従うとは限りません。それゆえに、勝利者に対する召しがあるのです。

G. その霊が諸召会に語ることを聞く耳のある者たちは聞くべきであり、聞く者たちは勝利者となります：

1. 主が常にわたしたちの耳を開いて彼の声聞かせたいのは、わたしたちが彼のエコノミーしたがって物事を見るためです——ヨブ 33:14-16. イザヤ 50:4-5. 出 21:6。
2. 重い耳は割礼される必要があります——エレミヤ 6:10. 使徒 7:51。
3. 罪人の耳は贖う血できよめられ、その霊で油塗られる必要があります——レビ 14:14, 17, 28。
4. 祭司として主に仕えるために、贖う血でわたしたちの耳をきよめていただかなければなりません——出 29:20. レビ 8:23-24。
5. その霊が諸召会に語っているとき、わたしたちはみな、開かれ、割礼され、きよめられ、油塗られた耳をもって、その霊の語りかけを聞く必要があります。

H. その霊の語りかけは召会歴史における七種類の召会に關してです。それは、初期の召会（エペソ）、苦難の召会（スミルナ）、この世的な召会（ペルガモ）、背教の召会（テアテラ）、改革の召会（サルデス）、回復の召会（ヒラデルヒヤ）、回復し後退した召会（ラオデキヤ）です：

1. 後半の四種類の召会は主が戻って来るまで、とどまり続けるでしょう。
2. 疑いもなく、回復の召会は神の永遠の定められた御旨を成就することができます。これだけが主の求めているものです。わたしたちは主の選びを取らなければなりません。
3. ラオデキヤはゆがめられたヒラデルヒヤであり、なまるぬさと靈的な高ぶりを持っています——啓3:14-17：
 - a. ラオデキヤとは、すべてのことを知っているが、実は、何にも熱心でないことを意味します。名目上、それはすべてのものを持っていますが、何にも命をささげることができません。それは以前の栄光を覚えていますが、神の御前での現在の状態を忘れていました。
 - b. もしヒラデルヒヤの道にとどまりたいなら、わたしたちは神の御前にへりくだらなければなりません——参照、7-22節. イザヤ57:15. 66:1-2。

II. 回復の召会（ヒラデルヒヤ）において、キリストはその肩に神の家（神の王国の建造のためのダビデの家によって予表されている）のかぎ（宝物倉）が置かれた者として見られます——22:22. 啓3:7：

- A. 回復の召会にとって、キリストはダビデのかぎ（王国のかぎ）を持つ者、開いたり閉じたりする権威を持っています。主は一つ思いである回復の召会に、だれも閉じることのできない開かれた戸を与えました——8節. 参照、詩第133篇
- B. ダビデのかぎは、わたしたちが造り変えられて白い石となり、神の御名と、新しいエルサレムの名と、主の新しい名のある柱として神の家の中に建造されるための戸を開きます——啓2:17. 3:12：
 1. わたしたちが神の中へと建造され、新エルサレムの構成要素となり、新しいキリ

ストの一部となることは人間的には不可能ですが、わたしたちの内側にある命の霊の法則は不可能を対処する要素を含んでいます——ローマ 8:2. 啓 3:7-13. 参照、創 28:12-19. ヨハネ 1:51。

2. キリストは神の宝物倉の戸を制御するかぎを持っています。その中には、わたしたちが享受するためのキリストにある神の豊富があります。わたしたちは彼がこれらの富をわたしたちに開くことと閉じることを両方経験してきました——エペソ 4:30. I テサロニケ 5:17. I ヨハネ 1:7, 9 :

a. 宝としての彼の豊富を享受するために、わたしたちは主との接触の中にとどまり、命の感覚にしたがって主との接触の中にとどまり、霊の中で貧しく、心が純粹である必要があります——II コリント 2:10. ローマ 8:6. 10:12-13. コロサイ 3:16. マタイ 5:3, 8。

b. 宝としての彼の豊富を享受するために、わたしたちは自己を否み、十字架を取り、魂の命を失うかぎを行使することを学ぶ必要があります。わたしたちはみな「セブナ」、すなわち、キリストによって取り除かれ、置き換えられるべきものであり、それは彼がわたしたちの中で、わたしたちにとってすべてとなり、わたしたちを通して、わたしたちのためにすべてのことを行なうためです——イザヤ 22:15-19. マタイ 16:24-25。

III. 回復し後退した召会において、キリストは勝利者たちと共に食事をし、勝利者たちを彼と共に彼の座に着かせる方として見られます。それは、彼が彼の父と共に彼の御座に着いたのと同じです——啓3:20-21 :

A. 「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開くなら、わたしは彼の所に入って行き、彼と共に食事をし、彼はわたしと共に食事をするであろう」——20節 :

1. 戸は、各個人の心の戸ではなく、召会の戸です。主は召会のかしらとして、墮落した召会の外に立って、戸をたたいています。

2. 戸は召会の戸ですが、個々の信者たちによって開かれています。ラオデキヤに在る召会は知識を持っていますが、主の臨在を持っていません。

3. 主の目に回復し墮落した召会は、(1) 悩んでいる。なぜなら、召会は教理のむなしい知識において豊かであると誇っていますが、実はキリストの豊かさの経験に全く貧しいからです。(2) みじめである。なぜなら、召会は裸で、盲目で、恥と暗やみに満ちているからです。(3) 貧しい。なぜなら、召会はキリストの経験に貧しく、神のエコノミーの霊的实际に貧しいからです。(4) 盲目である。なぜなら、召会は真の霊的事柄における真の霊的洞察力に不足しているからです。

(5) 裸である。なぜなら、召会はキリストによって生きず、主観的な義としての、日ごとの歩みにおける第二の衣としてのキリストを生きないからです——15-17節. 参照、詩 45:1, 9-14。

4. 主は全召会を対処していますが、主の対処を受け入れることは個人的で主観的な事柄でなければなりません。

5. 主と共に食事することは、食物の一つの品目だけを食べるのではなく、食事、祝宴の豊富にあずかることです。この事は、イスラエルの子たちがカナンの良い

地の豊富な産物を食べることの予告の成就を暗示しているかもしれません——ヨシュア 5:10-12。

6. 命の木、隠されたマナ、祝宴としてのキリストをわたしたちが享受することを通して、わたしたちは構成要素において、一つの実体として、彼とミングリングされます。それは、新エルサレムとして彼を表現するためです——啓 2:7, 17. 3:20。
- B. 「勝利を得る者を、わたしと共にわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父と共に彼の御座に着いたのと同じである」——21節：
1. 主と共に主の座に着くことは勝利者に対する賞となります。それは、彼が主の権威にあずかり、来たるべき千年王国において全地を支配することで彼と共に共同の王となるためです——ルカ 19:11-27. マタイ 25:21, 23。
 2. 神の意図はご自身を人の中へと造り込み、人と取り組むことですが、それは人が御座に着くことができるためです。神の意図は、わたしたちを御座の民とすることです——啓 2:26-27. 3:21. 22:5. 参照、イザヤ 14:12-14。
 3. 彼の十字架、復活、昇天を通して、主イエスは御座にもたらされました。イエスという名の真の人が御座に着いています（エゼキエル 1:26）。今や、今日、天地の主、宇宙の主は人です。こういうわけで、わたしたちは「イエスは主」と宣言し、また「おお、主イエスよ」と呼ぶのです。
 4. 主イエスは御座への道を開きました。彼は開拓者、先駆者であって（へブル 6:20. 2:6-9）、御座への道を切り開きました。彼が道を切り開き、先導したのは、わたしたちが従うためでした（10-12 節）。
 5. 今や、わたしたちは御座に向かっています。なぜなら、神はわたしたちを栄光へともたらし、わたしたちを御座の上に置くことを意図しています。神は人を通してご自身を現すことを願い、人を通して支配し、治めることを願っています。神の意図はサタンを投げ落とし、サタンによってとりこにされている人たちの多くを贖って、彼らを御座にもたらすことです。
 6. わたしたちは神の子たちとなるために召され、王となる運命にあります。神にわたしたちの中で、わたしたちの上で働いていただき、王職のために資格づけていただく必要があります——ローマ 5:17, 21. 参照、エゼキエル 1:22, 26. マタイ 8:9。